

**つつが虫病に注意しましょう。**

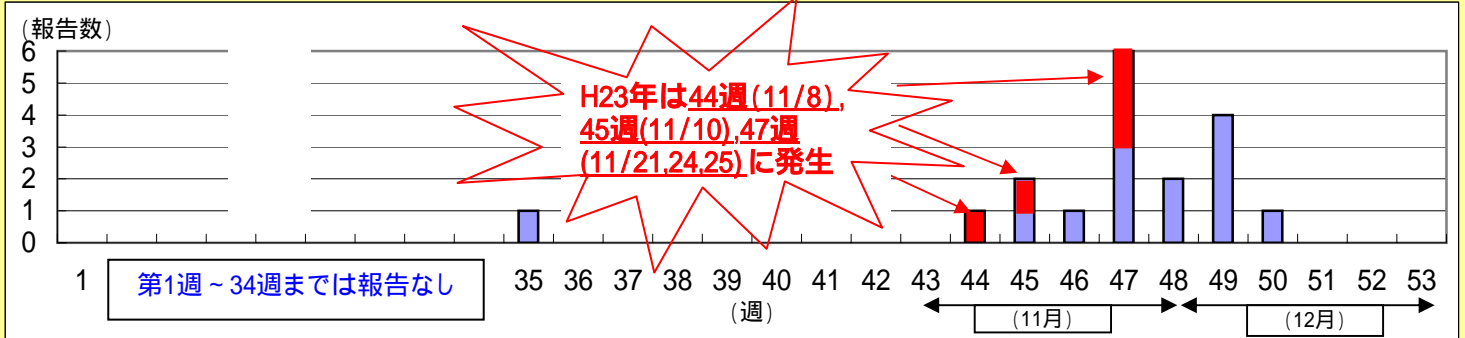
**つつが虫病の発生が急増しています。**  
 沓岐地区は、長崎県内において、つつが虫病の発生が多い地区です。今年度も11月に入ってから既に5件の発生報告があり、十分注意が必要です。

**つつが虫病発生状況(全国、長崎県、沓岐保健所) \*H18～H23年(第47週まで)**

年別	H18	H19	H20	H21	H22	H23	合計
全国計	397	382	442	455	406	*265	2347
長崎県計	10	6	10	6	6	*7	45
沓岐	3	3	3	1	3	5	18

\*H23.第46週までのデータ

**沓岐保健所管内 つつが虫病発生状況 \*H18～H23年累計(第47週まで)**



**つつが虫病とはどのような病気ですか？**

つつが虫病リケッチアという病原体を保有するつつが虫の幼虫に刺されることにより発病する病気です。  
 普通は雑木林、やぶ、河川敷、および畑などに生息する野ネズミ等に寄生していますが、ハイキング、農作業等に出かけた人に感染することがあります。  
 \*タテツツガムシやフトゲツツガムシは秋～初冬にふ化し、この時期に関東～九州地方を中心に多くの発生がみられます。  
 (同じように、ダニの仲間のマダニ類によって起こる日本紅斑熱と臨床症状がよく似ており、確定診断には、抗体検査や遺伝子検査が必要です。)



例)フトゲツツガムシ

**つつが虫病が発病したらどのような症状が現れますか？**

つつが虫病の病原体を持った幼虫に刺されてから7～10日目頃、発熱(38～39℃台)で始まり、全身倦怠感、寒気、頭痛、関節痛などのかぜ様症状が現れます。  
 高熱が続き、発病から3～5日目頃に、ほぼ全身にわたって粟粒大から小豆大の赤い発疹が現れます。つつが虫が吸着(刺した)部位の近くのリンパ節がはれてきます。  
 刺し口は、腋窩(わきのした)、胸腹部、臀部(お尻)および陰部など柔らかい部位にみられ、発熱してから6日目頃に中央部に黒いカサブタが出来てまわりは発赤した状態になります。

【写真:発疹】



【写真:刺し口】



**早期発見・早期治療を忘れずに！**

つつが虫の生息していそうな場所に立ち入ってから7～10日後に発熱した時は、まず「つつが虫病かな？」と疑ってみる事です。そして、すぐに医療機関で受診し適切な治療を受けましょう。この病気は早期に治療すれば心配はいりません。人から人へうつる心配もありません。



**つつが虫病の予防方法は**

つつが虫が居そうな場所へ立ち入る場合は、自衛策を講ずる必要があります。  
 長そで、長ズボン、長ぐつ、手袋を着用し、素肌をできるだけ出させない。  
 休息するときは、草むらなどには直接すわったり寝ころんだりしない。  
 ダニ忌避剤、防虫剤を衣服や露出部分に散布(塗布)する。  
 作業やレジャー後は脱衣の洗濯等を行い清潔に保つ。

\* 国立感染症研究所感染症情報センターの感染症の話を参照して作成しております。